

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月12日

(宛先) 岡 崎 市 長

提出者

住 所 岡崎市洞町字下荒田5番地

氏 名 白龍建設株式会社

代表取締役 柴田好隆

電話番号 (0564) 22-5600

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	白龍建設株式会社
事業場の所在地	岡崎市洞町字下荒田5番地
計画期間	令和5年度(令和5年4月~令和6年3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06:総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高:113,450万円
③ 従業員数	7人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	(建築物解体) がれき類→再生処理業者に委託し、破碎後、再生砕石として再資源化 木くず→再生処理業者に委託し、破碎後、チップとして再資源化 混合物→中間処理業者に委託し、選別後、再生成処理・埋立処分 (建設工事) がれき類→再生処理業者に委託し、破碎後、再生砕石として再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
<p>(管理体制図)</p> <p>廃棄物処理統括責任者 (代表取締役社長)</p> <p>↓</p> <p>廃棄物処理責任者 (作業所長) : 廃棄物処理委託契約書の締結</p> <p>↓</p> <p>廃棄物処理担当者 (現場担当者) : 廃棄物管理票の交付</p>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度 (令和 4年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物の排出抑制、分別の徹底		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現状維持		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 少量廃棄物排出事業所においてもフレコンパックを使用し分別		

②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状維持
-----	--

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t

	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし
--	--------------------------

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t

		<p>(これまでに実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良認定処理業者の優先利用 ・委託処理業者への委託中確認実施
--	--	---

(第5面)

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
		全処理委託量	t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	t	t
		再生利用業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
		<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状維持 		
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 5 月 15 日

岡 崎 市 長 様

提出者

住 所 岡崎市羽根町字中田5番地11

氏 名 株式会社 畔柳組

代表取締役 畔柳 共広

電話番号 0564-54-4405

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	<small>かぶしき がいしゃ くろ やなぎ ぐみ</small> 株式会社 畔柳組
事業場の所在地	岡崎市羽根町字中田5番地11
計画期間	令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06：総合工事業
②事業の規模	元請完成工事高：115,552万円
③従業員数	24人

④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>土木工事</p> <p>側溝工事：がれき類→再生処理業者に委託して再生砕石として再資源化</p> <p>舗装工事：がれき類→再生処理業者に委託して再生 As として再資源化</p> <p>下水工事：汚泥→中間処理業者に委託して脱水後、土壌改良材として再資源化</p> <p>建築工事：木くず→再生処理業者に委託してチップとして再資源化</p> <p>：混合物→最終処分業者に委託して選別後、再資源化又は破碎、焼却、埋立処分</p> <p>：廃プラ→再生処理業者に委託して RPF 燃料として再資源化</p>
-----------------	--

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
<p>(管理体制図)</p> <p>社長 (産業廃棄物処理統括責任者)</p> <p>・</p> <p>工事部 (産業廃棄物管理担当部長)</p> <p>├──</p> <p>│ 土木部 (産業廃棄物管理担当課長)</p> <p>│ └──</p> <p>│ 現場代理人 (産業廃棄物管理責任者)</p> <p>└──</p> <p>開発部 (産業廃棄物管理担当課長)</p> <p>└──</p> <p>現場代理人 (産業廃棄物管理責任者)</p>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
1 現状	【前年度 (令和4年度) 実績】 別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	排出量	t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】 別紙のとおり	

	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙のとおり		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙のとおり		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
1 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
1 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		

	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	②計画		
	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
1 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t

		(今後実施する予定の取組)	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
1 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t

		認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)				
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	排出量	9.3t	1,430.30t	0.00t	14.38t	5.42t	0.00t	0.00t	13.60
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 型枠については、可能な限り再利用する。 								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	排出量	8t	1,287t	1t	13t	5t	1t	1t	12
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> 工法の改善(建設工事の技術革新による産業廃棄物の抑制)を検討する。 								

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> がれき類、紙くず、木くず、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずはそれぞれに分別し、処分業者に搬入している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> 特になし。

別紙2

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
	(これまでに実施した取組)								
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用済みコピー用紙の裏紙を再利用している。 ・ 型枠材は整備し再利用している。 								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
	(今後実施する予定の取組)								
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。 								

別紙3

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
(これまでに実施した取組)									
<ul style="list-style-type: none"> 実施していない。 									
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
(今後実施する予定の取組)									
<ul style="list-style-type: none"> 減量、熱回収等の中間処理については、委託処理により実施していく。 									

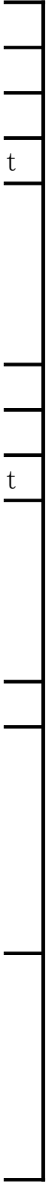
別紙4

自ら行う産業廃棄物の埋立処理又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
	(これまでに実施した取組) ・ 実施していない。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
	(今後実施する予定の取組) ・ 実施する予定はない。								

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】									
産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物	
①現状	全処理委託量	9.30 t	1,430.30t	0.00 t	14.38 t	5.42 t	0.00 t	0.00 t	13.60
	優良認定処理業者への処理委託量	5.50 t	7.20 t	0.00 t	0.00 t	2.90 t	0.00 t	0.00 t	13.60
	再生利用業者への処理委託量	0.93 t	1,430.30t	0.00 t	14.38 t	5.42 t	0.00 t	0.00 t	12.24
	認定熱回収業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> 可能な限り再生利用業者への処理委託を行っており、最終処分量の低減をはかっている。 法令に従い、業者と書面により委託契約を締結する。 可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減を図る。 								
【目標】									
産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	紙くず	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物	
②計画	全処理委託量	8t	1287t	1t	13t	5t	1t	1t	12
	優良認定処理業者への処理委託量	1t	129t	1t	1t	1t	1t	1t	1
	再生利用業者への処理委託量	8t	1287t	1t	13t	5t	1t	1t	12
	認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0
(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> 優良認定処理業者を選定して処理を委託する。 委託処理業者には定期的に状況確認を実施する。 									











（第1面）

産業廃棄物処理計画書

平成35年05月26日

岡崎市長 殿

提出者

住 所 愛知県岡崎市羽根東町三丁目3番地9

氏 名 株式会社不動産SHOPナカジツ

代表取締役 鳥居 守

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0564-55-0015

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	愛知県岡崎市羽根東町三丁目3番地9
事業場の所在地	株式会社不動産SHOPナカジツ
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合工事業 不動産取引業（K-68）
②事業の規模	売上高：31,600百万円
③従業員数	800人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1 処理工程図のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添2 管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・余剰材の発生抑制を図るため、発注内容の精度向上を図っております。 ・資材管理を徹底した余剰材の有効活用等により排出抑制に努めております。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 廃棄物の排出抑制を図るため、発注内容の見直し、工事現場への意識付けを強化していきます。また、商品・工法の標準化を推進することにより、使用材料の正確な把握と削減に努めてまいります。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 適切な処理が出来るように現場内で廃棄物の種類毎の分別を徹底しております。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 今後も適切な処理が出来るように、現場内での分別等徹底してまいります。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	
①現状①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	産業廃棄物の	—
	産業廃棄物の量 自ら再生利用を行った	— t	t
	（これまでに実施した取組）（これまでに実施した取組） 該当無し		
②計画②計画	【目標】 【目標】		
	産業廃棄物の種類	産業廃棄物の	—
	産業廃棄物の量 自ら再生利用を行う	— t	t
	（今後実施する予定の取組）（今後実施する予定の取組） 該当無し		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項		自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	
①現状①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	産業廃棄物の	—
	産業廃棄物の量 自ら熱回収を行った	— t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	t
（これまでに実施した取組） 該当無し			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
（今後実施する予定の取組） 該当無し			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は	
①現状①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	産業廃棄物の	—
	海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った	— t
	（これまでに実施した取組）（これまでに実施した取組） 該当無し		
②計画②計画	【目標】【目標】		
	産業廃棄物の種類	産業廃棄物の	—
	海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う	— t
	（今後実施する予定の取組）（今後実施する予定の取組） 該当無し		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		産業廃棄物の処理の委託に関する事項	
①現状①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	産業廃棄物の	別紙集計表のとおり
	全処理委託量	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量		t
	再生利用業者への処理委託量		t
	認定熱回収業者への処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t
（これまでに実施した取組） ・許可証・処分場確認等により適切な業者を選定し、委託契約を締結した上で処理委託を行っております。 ・電子マニフェストを導入し、処理状況の迅速・正確な把握に努めると共に、適正なマニフェスト管理を実施しております。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子マニフェストの運用により、適正なマニフェスト管理を継続してまいります。 ・定期的に委託処分場の現地視察を実施し、処分状況の確認を行ってまいります。 			
※事務処理欄			

備考備考

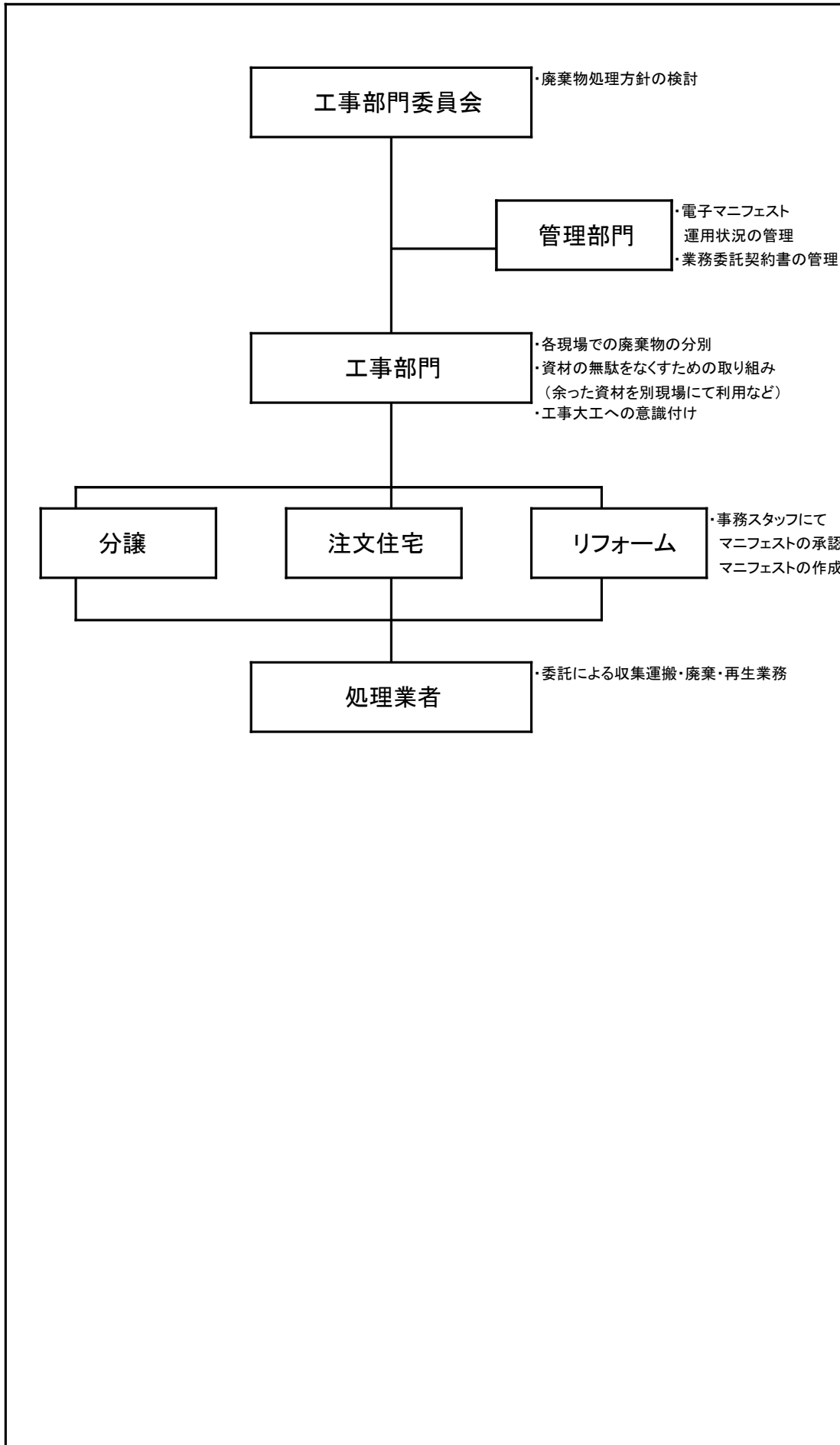
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。前年度の産業廃棄物
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。「当該
(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成
工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規
模が分かるような前年度の実績を記入すること。模が分かるような前年度の実績を記入すること。
(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまで
の一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中
間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間
処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量
を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行
令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収
施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)であ
る処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者
への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のと
おり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の
種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入
すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、
「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別添 1 処理工程図

工事現場・建設現場 ⇒ 収集運搬 ⇒ 中間処理場（品目により破碎等の処理）
（一部委託） （委託）

⇒ 再生 ⇒ 建築・工事資材へ再資源化
⇒ 再生出来ない廃棄物 ⇒ 最終処分場（埋め立て）

別添2 管理体制図



様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 4 年 6 月 30 日	
(宛先) 岡 崎 市 長	
提出者	
住 所 岡崎市竜美南1丁目9番地5	
氏 名 有限会社 生駒組	
代表取締役 生駒 尚久	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0564-51-4825	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	(有)生駒組
事業場の所在地	岡崎市竜美南一丁目9番地5
計画期間	令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06: 総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高: 2億9000万円
③ 従業員数	30人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	(建物解体) がれき類・木くず・金属くず→再生処理業者に委託し、破砕後は再資源化 廃プラ・ガラ陶・繊維・紙くず→自社にて選別後、再生・埋立処分

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
本社事務所 (廃棄物担当) 廃棄物処理に関する事務等			
↓			
自社 合歓木処分場 (環境部部長) 廃棄物適正処分の確認			
↓			
自社 合歓木処分場 (環境部次長・収運課長) 廃棄物の搬入・搬出作業			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度 (令和4年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	排 出 量	360 t	49 t
	(これまでに実施した取組) リサイクル率を上げる為、選別をしっかりと行う。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	排 出 量	400 t	45 t
	(今後実施する予定の取組) リサイクルだけでなくリユースにも力を入れる		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) とにかく種類ごとの分別をし、リサイクル率を上げる		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記をさらに進める		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	排出量	443 t	141 t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	排出量	400 t	130 t
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	排出量	158 t	648 t
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	排出量	140 t	600 t
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	排出量	2,112 t	939 t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	排出量	2,000 t	800 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組)			
焼却炉があるが、熱回収のできるタイプではない			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)			
リサイクル率を上げる為、単純焼却をしない			

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)			

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	全処理委託量	360 t	49 t
	優良認定処理業者への処理委託量	80 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	280 t	49 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	全処理委託量	443 t	141 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	443 t	141 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	全処理委託量	158 t	648 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	158 t	301 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	全処理委託量	2,112 t	939 t
	優良認定処理業者への処理委託量	330 t	0
	再生利用業者への処理委託量	2,112 t	193 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	全処理委託量	400 t	45 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	100 t	30 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>優良認定を持っている業者は安心できるが、年に1度は処分場を確認し、適正処理に努める。</p> <p>リサイクル率を少しでも上げる必要がある。</p>		
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	繊維くず
	全処理委託量	400 t	180 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	200 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	200 t	180 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラ陶
	全処理委託量	140 t	600 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	140 t	300 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合
	全処理委託量	1,500 t	800 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	1,500 t	500 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月29日

(宛先) 岡 崎 市 長

提出者

住 所 愛知県豊田市舞木町小原野 630番地 3

氏 名 株式会社GRAM

代表取締役 深田 勝善

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0565-42-7733

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	岡崎市岩津町東山 解体现場他 3件
事業場の所在地	岡崎市岩津町東山 28番地 12
計画期間	令和 5年度（令和 5年 4月～令和 6年 3月）
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	職別工事業（設備工事業を除く・解体業）
②事業の規模	
③従業員数	

④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>がれき類：再生処理業者に委託。破碎後、再生砕石として再資源化。</p> <p>紙くず：再生処理業者に委託。圧縮後、製紙材料として再資源化。</p> <p>木くず：再生処理業者に委託。破碎、ボイラー燃料として再資源化。</p> <p>繊維くず：再生処理業者に委託。焼却燃料として再利用。</p> <p>ガラスくず：再生処理業者に委託。破碎後、再資源化。</p> <p>混合物：最終処分業者に委託。選別後、破碎・焼却・埋立処分。</p> <p>がれき類（石綿を含む）： 最終処分業者に委託。選別後、破碎・焼却・埋立処分</p>
-----------------	--

（日本工業規格 A列4番）

（第2面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
<p>(管理体制図)</p> <p>代表取締役 ↓ 現場担当者 ↓ 下請会社担当者 ↓ 下請会社現場責任者</p>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	別紙のとおり	t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>分別・再生利用が容易になる様に解体を行う。</p>		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	

	排出量	別紙のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) 上記を継続する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類、紙くず、木くず、ガラス・陶器くず、繊維くず、廃御プラスチック類はそれぞれ分別して保管する。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記を継続して行う。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	なし	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	なし	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	なし	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t

	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	なし	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	なし	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	なし	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t

		<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>業者と書面により委託契約を締結する。</p> <p>可能な範囲で再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減を図る</p>
--	--	---

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 上記を継続する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の種類	ガラス・陶器くず	紙くず	がれき類	がれき類 (石綿含む)	木くず	繊維くず	混合物
排出量	6.4 t	2 t	1105 t	3 t	43 t	1 t	13 t
全処理委託量	6.4 t	2 t	1105 t	3 t	43 t	1 t	13 t
優良認定処理業者への 処理委託量	t	2 t	t	t	24 t	t	t
再生利用業者への 処理委託量	6.4 t	t	1105 t	t	19 t	1 t	t
認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t

別紙

令和5年度 廃棄物の種類・排出量・委託量 実績

廃棄物の種類・排出量・委託量 目標

産業廃棄物の種類	ガラス・陶器くず	紙くず	がれき類	がれき類 (石綿含む)	木くず	繊維くず	混合物
排出量	1 t	1 t	100 t	0 t	25 t	1 t	2 t
全処理委託量	1 t	1 t	100 t	0 t	25 t	1 t	2 t
優良認定処理業者への 処理委託量	t	1 t	t	t	15 t	t	t
再生利用業者への 処理委託量	1 t	t	100 t	t	10 t	1 t	t
認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t

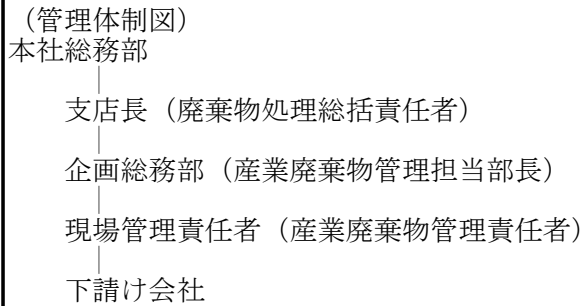
様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書		2023年 6月 30日
岡崎市長 殿		
提出者 NDS株式会社 豊橋支店		
住所 豊橋市瓜郷町寄道33番地の1		
氏名 支店長 佐藤 明		
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)		
電話番号 0532-53-8000		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	NDS株式会社 豊橋支店	
事業場の所在地	豊橋市瓜郷町寄道33-1	
計画期間	2023/4/1-2024/3/31	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
① 事業の種類	08 設備工事業	
② 事業の規模	元請完成工事高：1,544百万円	
③ 従業員数	129名	
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	通信建設工事：がれき類→再生処理業者に委託して、再生砕石として再資源化	

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (2022年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 廃プラスチック類、金属くず、木くず、がれき類はそれぞれ分別		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃プラスチック類、金属くず、木くず、がれき類はそれぞれ分別
②計画	(今後分別する予定の産業・特になし廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特になし

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施する予定はない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の提言を図る		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p>令和 5年 6月 6日</p> <p>(宛先) 岡 崎 市 長</p> <p>提出者 住 所 岡崎市藪田1丁目11番地57 氏 名 株式会社加納空調工事センター 代表取締役 神尾 哲平 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0564-23-1859</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	株式会社 加納空調工事センター
事業場の所在地	愛知県岡崎市藪田1丁目11番地57
計画期間	令和5年度(令和5年 4月~令和6年 3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	08:設備工事業
② 事業の規模	元請完成工事高:27,940万円
③ 従業員数	10人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	(建設工事) がれき類:再生処理業者に委託し、破碎後、再生砕石として再資源化 混合物:再生処分業者に委託し、選別後、破碎、焼却・埋立処分 汚泥:中間処理業者に委託し、脱水後、土壌改良材として再資源化 金属くず:再生処理業者に委託し、破碎後、鋼材として再資源化

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 代表取締役(廃棄物処理統括者) <廃棄物処理に関する検討> ↓ 工事現場責任者(廃棄物管理責任者) <マニフェスト管理等>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	排出量	1188.4 t	14.0 t
	(これまでに実施した取組) 公共工事における排出がほとんどのため量の抑制が困難(がれき類、汚泥)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	排出量	1150.0 t	13.5 t
	(今後実施する予定の取組) 余分な掘削の削減		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類 → コンクリート塊、アスファルト塊の分別		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記に加え、有筋コンクリート塊、コンクリート二次製品等の分別		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 代表取締役(廃棄物処理統括者) <廃棄物処理に関する検討> ↓ 工事現場責任者(廃棄物管理責任者) <マニフェスト管理等>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
② 現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	石綿セメント管
	排出量	4.26 t	1.69 t
	(これまでに実施した取組) 公共工事における排出がほとんどのため量の抑制が困難(廃プラスチック類、石綿セメント管)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	石綿セメント管
	排出量	4.00 t	1.50 t
	(今後実施する予定の取組) 余分な掘削の削減		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類 → ポリエチレン管・塩ビ管類の分別		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 自社においての中間処理は、困難		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	全処理委託量	1188.4 t	14.0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1188.4 t	14.0 t
	再生利用業者への処理委託量	1188.4 t	14.0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 業者と書面により委託契約を締結する		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	全処理委託量	1150.0 t	13.5 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1150.0 t	13.5 t
	再生利用業者への 処理委託量	1150.0 t	13.5 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
② 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	石綿セメント管
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 未実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	石綿セメント管
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
② 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	石綿セメント管
	全処理委託量	4.26 t	1.69 t
	優良認定処理業者への処理委託量	4.26 t	1.69 t
	再生利用業者への処理委託量	4.26 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 業者と書面により委託契約を締結する		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	石綿セメント管
	全処理委託量	4.00 t	1.50 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	4.00 t	1.50 t
	再生利用業者への 処理委託量	4.00 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

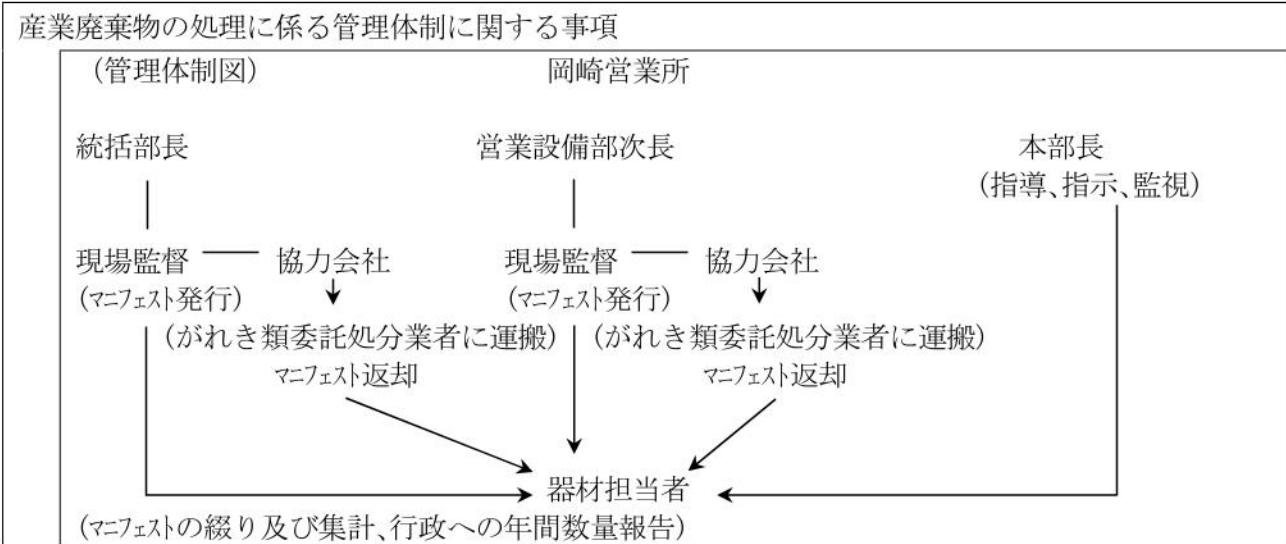
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書 令和5年6月1日	
(宛先) 岡 崎 市 長	
提出者 住所 岡崎市久後崎町字本郷 19 氏名 水金工事(株) 岡崎営業所 代表取締役 水谷隆夫 電話番号 0564-21-5103	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	水金工事株式会社 岡崎営業所
事業場の所在地	岡崎市久後崎町恵藤 29-6 および岡崎市内管轄現場
計画期間	令和4年度(令和4年 4月~令和5年 3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
事業の種類	08:設備工事業
事業の規模	元請完成工事 : 259,189,005
従業員数	50名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	ガス配管工事現場 道路でのガス本支管布設工事、入替工事、除去した舗装がれき類→再生処理業者へ委託、アスガラはアスファルトに再生 コンガラは再生砕石に再資源化 岡崎営業所内 材料梱包材、現場からの撤去物、ガス管加工での発生くず 廃プラスチック類→再生処理業者へ委託、燃料資材として再資源化 木くず→再生処理業者へ委託、燃料資材として再資源化

(第2面)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

現状	【前年度 (令和4年度) 実績】				
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	混合物	廃プラ
	排出量	1132 t	0.4 t	14 t	8 t
(これまでに実施した取組) ・がれき類：非掘削工法の導入で排出量を引き続き減量した ・混合：内容物を仕分けし削減					
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	混合物	廃プラ
	排出量	1100 t	0.3 t	12 t	5 t
(今後実施する予定の取組) ・がれき類：非掘削工法の施工割合を拡大していく ・混合：引き続き削減していく					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 事業所内で混合物は分別保管している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の分別方法を継続していく

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

現状	【前年度（令和 4 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

現状	【前年度（令和4年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	混合物	廃プラ
	全処理委託量	1132 t	0.4 t	14 t	8 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1132 t	0.4 t	14 t	8 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組) 発生した全ての産業廃棄物を再生、リサイクル業者へ委託処分				

(第5面)

②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	混合物	廃プラ
	全処理委託量	1100 t	0.3 t	12 t	5 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1100 t	0.3 t	12 t	5 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) 現状の取組を引き続き維持して推進する				
※事務処理欄					

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6月 30日

(宛先) 岡 崎 市 長

提出者

住 所 名古屋市緑区徳重三丁目107番地

氏 名 カネ美食品株式会社

代表取締役 寺山 雅也

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 052-879-6111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	カネ美食品株式会社 岡崎工場
事業場の所在地	愛知県岡崎市高橋町字宇多利1-1
計画期間	令和5年度(令和5年4月~令和6年3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09:食料品製造業
②事業の規模	39億947万円
③従業員数	319人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	■廃油→再生処理業者に委託し、燃料及び油脂製品として再資源化 ■動植物性残渣→中間処理業者に委託し、堆肥として再資源化 ■混合物→中間処理業者に委託し選別後可能なかぎり再資源化、 そうで無い物は埋立処分 ■廃プラスチック類→再生処理業者に委託し、圧縮後、燃料として再資源化 ■汚泥→中間処理業者に委託し、脱水後、堆肥として再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

■ 本社 品質管理室 (産業廃棄物担当責任者)

↓

■ 工場長 (産業廃棄物処理統括者)

↓

■ 工務担当責任者 (産業廃棄物管理担当責任者・産業廃棄物処理施設技術者)

↓

■ 工場現場責任者 (産業廃棄物管理責任者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	排出量	21 t	117 t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	排出量	18.9 t	113 t
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃油 <ul style="list-style-type: none"> → 食用油還元浄化装置にて廃食油脂の発生を抑制 ■ 動植物性残渣 <ul style="list-style-type: none"> → 予定製造数量を少なめに設定し、受注数が決まった段階で追加製造を実施する事に因り廃棄物の発生を抑制 			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃油 <ul style="list-style-type: none"> → 引き続き上記の取組を継続 □ → 食用還元浄化装置の定期整備を実施し性能を維持 ■ 動植物性残渣 <ul style="list-style-type: none"> → 引き続き上記の取組を継続すると共に、より一層廃棄ロスを低減 □ → 発生場所ごとの統計をとり、見える化を図る 			

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃油：特になし ■ 動植物性残渣：分別
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃油：特になし ■ 動植物性残渣：現状の計画を維持

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ■未実施		
②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ■実施予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) ■未実施			
②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) ■実施予定なし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ■未実施		
②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ■実施予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	全処理委託量	21 t	117 t
	優良認定処理業者への処理委託量	21 t	— t
	再生利用業者への処理委託量	21 t	117 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ■法令に従い、産業廃棄物処理業者と書面による委託契約を締結 ■適切に処理が行なわれているか年1回の現地実施確認の実施		

②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃油	動植物性残渣
	全処理委託量	18.9 t	113 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	18.9 t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	18.9 t	113 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ■動植物性残渣の再生利用実施率100%維持 ■引き続き年1回の現地実施確認の継続 ■処理委託先へ優良認定の取得を促す		
※事務処理欄			

別紙 (第2)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

- 本社 品質管理室 (産業廃棄物担当責任者)
- ↓
- 工場長 (産業廃棄物処理統括者)
- ↓
- 工務担当責任者 (産業廃棄物管理担当責任者・産業廃棄物処理施設技術者)
- ↓
- 工場現場責任者 (産業廃棄物管理責任者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (令和 4 年度) 実績】 ※他4項目については別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	排出量	8 t	11 t	2458 t
	(これまでに実施した取組) ■ 混合物→分別 蛍光ランプを分別 ■ 廃プラスチック類→汚れのある物との分別を行い産廃発生の低減を図る ■ 汚泥→酵母槽の汚泥濃度を上げて自己消化を促し、余剰汚泥の削減につなげる ■ 冷凍食材解凍機の設置、廃水処理への負荷となる水量の削減 ■ 廃水処理施設24時間監視装置、状況の早期把握、調整による汚泥のコントロール			
② 計画	【目標】 ※他4項目については、別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	排出量	7 t	10.45 t	2285 t
	(今後実施する予定の取組) ■ 混合物→分別頻度をあげ有価の比率を向上させる ■ 廃プラスチック類→分別の精度を上げリサイクル率の向上、従業員教育の実施 ■ 汚泥→汚泥 (汚水) 発生量を部門別に把握しコントロールする ■ 引き続き上記の取り組みを継続し維持管理に努める			

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ■ 混合物→鉄、非鉄の分別を実施 ■ 廃プラスチック類→一部有価処理 ■ 汚泥→特になし
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ■ 混合物→ 現状分別の維持 ■ 廃プラスチック類→引き続き有価処理を模索 ■ 汚泥→ 特になし

別紙（第3面）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
① 現状	【前年度（令和 4 年度）実績】※他4項目については別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ■未実施			
②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ■実施予定なし			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
① 現状	【前年度（令和 4 年度）実績】※他4項目については別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t	2289 t
(これまでに実施した取組) ■混合物→なし ■廃プラ→なし ■汚泥→ 処理施設の汚泥の状態によって余剰汚泥が多く発生 ■汚泥→ 効率の良い凝集剤選定、適正な濃度コントロールの管理 脱水機の性能維持を含め定期的なメンテナンスの実施				
②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t	2384 t
(今後実施する予定の取組) ■混合物→なし ■廃プラスチック→なし ■汚泥→施設全体を常に安定できるよう模索 ■汚泥→現状の対策を継続維持し、高効率、減量化につながるよう努める				

別紙（第4面）

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和 4 年度）実績】※他4項目については別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ■未実施			
②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ■実施予定なし			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和 4 年度）実績】※他4項目については別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	全処理委託量	8 t	11 t	169 t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	8 t	11 t	169 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ■法令に従い、産業廃棄物処理業者と書面による委託契約を締結 ■適切に処理が行なわれているか年1回の現地実施確認の実施			

別紙（第5面）

②計画	【目標】※他4項目については、別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類	混合物	廃プラスチック類	汚泥
	全処理委託量	7 t	10.45 t	167 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	— t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	7 t	10.45 t	167 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ■法令に従い、産業廃棄物処理業者と書面による委託契約を締結 ■適切に処理が行なわれているか年1回の現地実施確認の実施 ■再生利用処理量を増やし産廃の発生量の抑制を図る ■処理委託先へ優良認定の取得を促す			
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 23日

岡 崎 市 長 様

提出者

住 所 愛知県岡崎市仁木町字荒下1番地

氏 名 マルサンアイ株式会社

取締役社長 堺 信好

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0564-27-3700

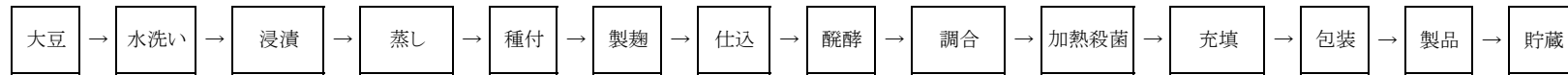
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	マルサンアイ株式会社 本社工場
事業場の所在地	愛知県岡崎市仁木町字荒下1番地
計画期間	令和5年度(令和5年 4月 ~ 令和6年 3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	09:食料品製造業
② 事業の規模	297億6017万円
③ 従業員数	336人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり ※ 添付資料 ・産業廃棄物の発生する製造工程フローシート ・事業場敷地図

産業廃棄物を発生する製造工程フローシート

製造品名 味噌、清涼飲料(豆乳)

◎ 味噌製造工程



大豆かす
(堆肥化)

廃プラスチック類(マテリアルリサイクル他)

廃棄みそ
(堆肥化)

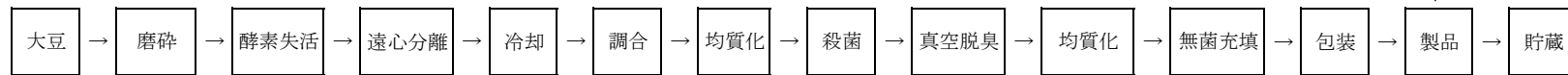
廃プラスチック類
(マテリアルリサイクル他)

廃棄製品(破砕選別)

木製パレット屑(燃料チップ)

プラ製パレット屑(マテリアルリサイクル)

◎ 清涼飲料製造工程(豆乳)



おから(飼料化)

廃プラスチック類(マテリアルリサイクル他)

廃棄原料
(堆肥化)

廃棄製品(破砕選別)

廃プラスチック類(マテリアルリサイクル他)

飲料廃液
(飼料化他)

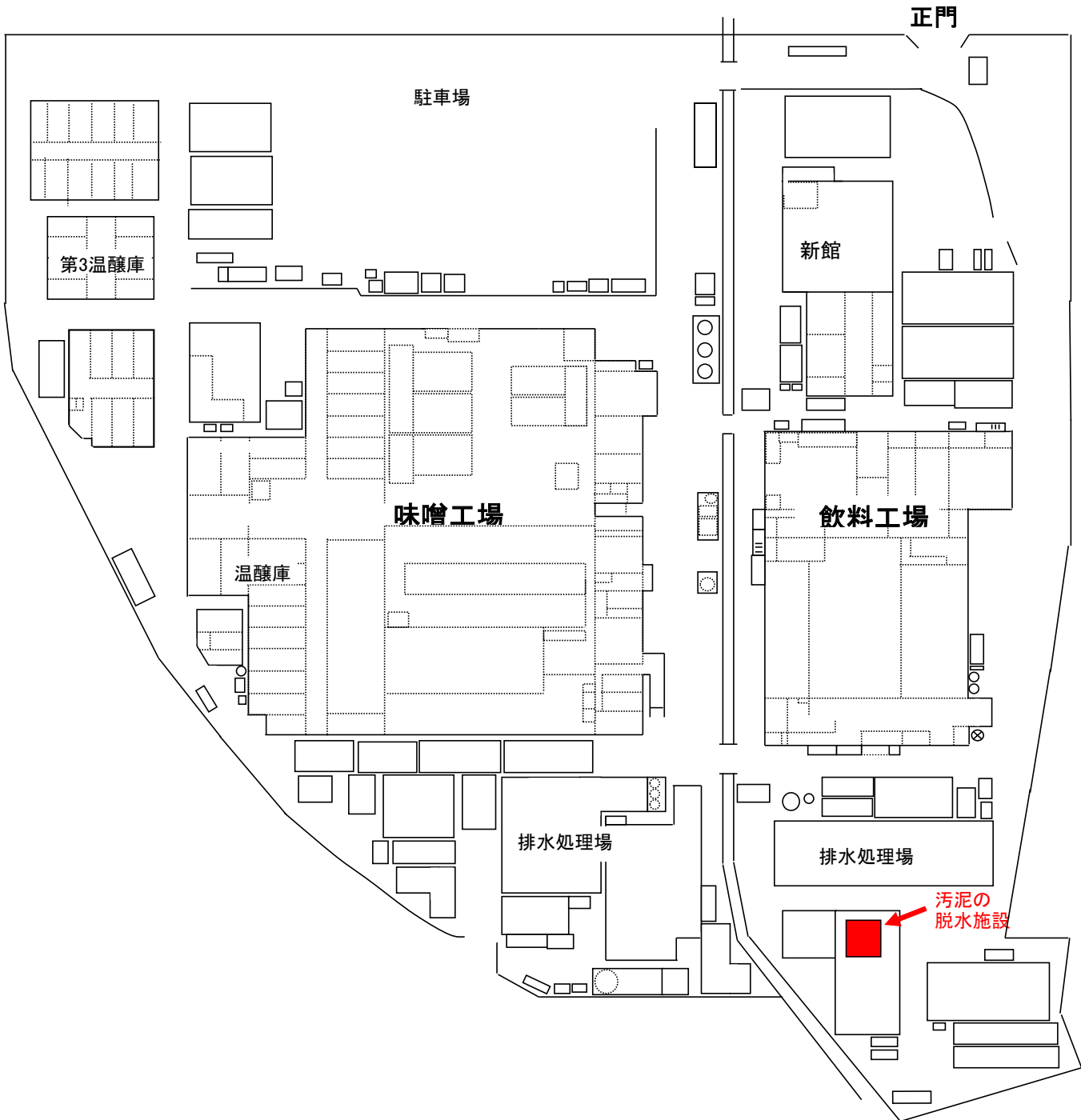
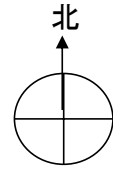
排水処理

余剰汚泥

有機汚泥

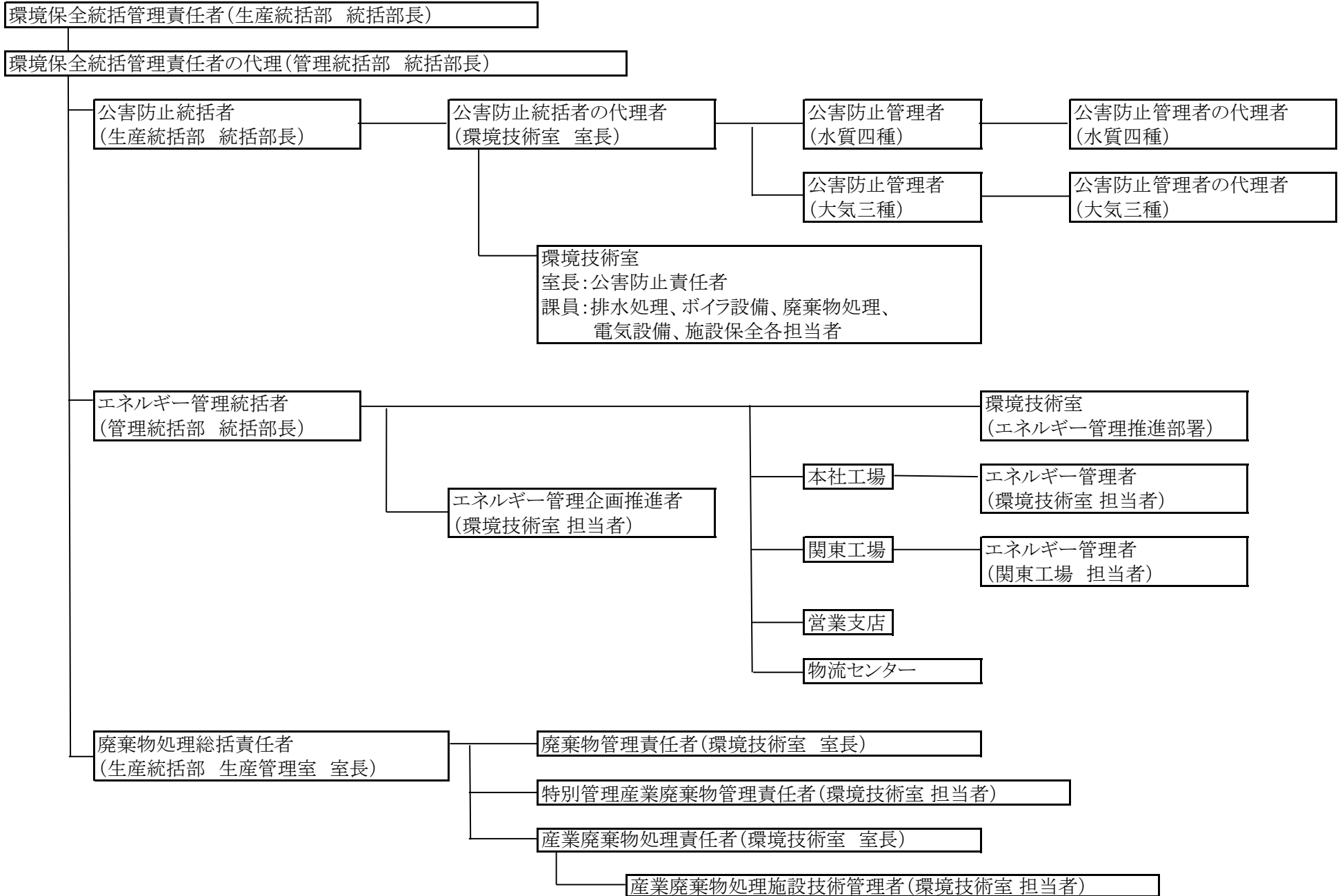
脱水

脱水汚泥 (堆肥化)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙のとおり			
※ 添付資料 環境組織			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（有機汚泥）	動植物性残さ（おから）
	排出量	3,496 t	3,729.89 t
	（これまでに実施した取組） <ul style="list-style-type: none"> ・生おからの飼料売却化を継続的に推進。含水率を下げ、付加価値を高めたおからも引続き販路拡大。 ・製造工程（設備等）の改善によりロス削減に努めている。 ・排水処理場の効率化で、飲料廃液の排出量を削減。 ・廃プラの有償化の継続実施。 ※ 他23項目については、別紙のとおり		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（有機汚泥）	動植物性残さ（おから）
	排出量	1,035 t	3,500 t
	（今後実施する予定の取組） <ul style="list-style-type: none"> ・排水処理方法や管理方法一部見直しによる有機汚泥の減量。 ・排水処理負荷変動時の安定化を図り、余剰汚泥の削減に努める。 ・おから売却（飼料化）ルートを増強。 ・内作不良の削減。 ※ 他23項目については、別紙のとおり		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物を61種類に分別している。 ・分別間違えと廃棄物の削減になるよう啓発活動を適宜している。 		
② 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） <ul style="list-style-type: none"> ・分別方法を適時見直し、再生利用量を増加させる。 ・再生利用者とは協議し、有償物量を増加させる。 		

環境組織



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】										
産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥	動植物性残さ	廃油	廃プラスチック類	廃プラスチック類	木くず	廃酸と廃プラ類の混合物	廃酸	汚泥と廃プラ類の混合物
	大豆かす	余剰汚泥	茶かす	潤滑油	汚れ有り	汚れ無し	木パレット	飲料廃棄製品	飲料廃液	みそ廃棄製品
排出量	147.000t	15323.0 t	0 t	1.9 t	52.796 t	30.07 t	2.45 t	49.12 t	17.95 t	163.10 t
(これまでに実施した取組) ・包装材の簡素化を行う。原料荷姿の変更による、発生量の削減に取り組む。 ・製造工程(設備等)の改善によりロス削減に努めている。 ・排水処理場への負荷低減に努めている。										
【目標】										
産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥	動植物性残さ	廃油	廃プラスチック類	廃プラスチック類	木くず	廃酸と廃プラ類の混合物	廃酸	汚泥と廃プラ類の混合物
	大豆かす	余剰汚泥	茶かす	潤滑油	汚れ有り	汚れ無し	木パレット	飲料廃棄製品	飲料廃液	みそ廃棄製品
排出量	130 t	9660 t	1 t	2 t	55 t	30 t	3 t	60 t	100 t	145 t
(今後実施する予定の取組) ・食品廃棄物の有効利用を検討する。 ・製品在庫の管理方法を見直し、廃棄処分量を削減する。 ・汚泥量、飲料廃液の削減を検討し、排水処理安定化に努める。										

【前年度(令和4年度)実績】										
産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず	廃酸	汚泥	ガラスくずと金属くずの混合物	金属くず	汚泥と廃プラ類の混合物	特定有害汚泥	廃油	特定有害廃酸
	廃棄みそ	薬品ガラス瓶	薬品廃液	廃棄薬品	蛍光灯、電球	薬品一斗缶	廃棄原料	廃棄薬品	廃棄薬品	廃棄薬品
排出量	273.855 t	0.01735 t	0.360 t	0.0182 t	0.278 t	0.000 t	7.25 t	0 t	0.256 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・包装材の簡素化を行う。原料荷姿の変更による、発生量の削減に取り組む。 ・製造工程(設備等)の改善によりロス削減に努めている。 ・排水処理場への負荷低減に努めている。										
【目標】										
産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず	廃酸	汚泥	ガラスくずと金属くずの混合物	金属くず	汚泥と廃プラ類の混合物	特定有害汚泥	廃油	特定有害廃酸
	廃棄みそ	薬品ガラス瓶	薬品廃液	廃棄薬品	蛍光灯、電球	薬品一斗缶	廃棄原料	廃棄薬品	廃棄薬品	廃棄薬品
排出量	350 t	0.05 t	0.5 t	0.01 t	0.2 t	0.01 t	20 t	0.01 t	0.2 t	0.01 t
(今後実施する予定の取組) ・食品廃棄物の有効利用を検討する。 ・製品在庫の管理方法を見直し、廃棄処分量を削減する。 ・汚泥量、飲料廃液の削減を検討し、排水処理安定化に努める。										

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

現状	【前年度(令和4年度)実績】										
	産業廃棄物の種類	汚泥と金属くずの混合物	動植物性残さ	動残と廃プラ類の混合物							
		電池	廃棄みそ	みそ廃棄製品							
	排出量	0.07 t	16.70 t	0 t	t	t	t	t	t	t	
(これまでに実施した取組) ・包装材の簡素化を行う。原料荷姿の変更による、発生量の削減に取り組む。 ・製造工程(設備等)の改善によりロス削減に努めている。 ・排水処理場への負荷低減に努めている。											
計画	【目標】										
	産業廃棄物の種類	汚泥と金属くずの混合物	動植物性残さ	動残と廃プラ類の混合物							
		電池	廃棄みそ	みそ廃棄製品							
	排出量	0.1 t	30 t	0 t	t	t	t	t	t	t	
(今後実施する予定の取組) ・食品廃棄物の有効利用を検討する。 ・製品在庫の管理方法を見直し、廃棄処分量を削減する。 ・汚泥量、飲料廃液の削減を検討し、排水処理安定化に努める。											

現状	【前年度(令和4年度)実績】									
	産業廃棄物の種類									
	排出量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)										
計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類									
	排出量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の取組)										

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（余剰汚泥）	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	15,323 t	
(これまでに実施した取組)			
<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥は脱水処理により減量化している。 ・脱水処理前工程の沈降分離による上澄水除去の精度向上化。 ・凝集剤の添加量を見直し、含水率低下を図っている。 			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（余剰汚泥）	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	9,660 t	
(今後実施する予定の取組)			
<ul style="list-style-type: none"> ・自社汚泥脱水機の処理効率を向上させ、減量化、効率化を進める。 ・定期的な洗浄とメンテナンスの強化。 			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状 ※ 別紙のとおり	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

② 計画 ※ 別紙のとおり	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】										
産業廃棄物の種類	動植物性残さ	動植物性残さ	汚泥	動植物性残さ	廃油	廃プラスチック類	廃プラスチック類	木くず	廃酸と廃ブラ類の混合物	廃酸
	おから	大豆かす	余剰汚泥	茶かす	潤滑油	汚れ有り	汚れ無し	木パレット	飲料廃棄製品	飲料廃液
全処理委託量	3729.89 t	147.000 t	15323 t	0 t	1.9 t	52.796 t	30.07 t	2.45 t	49.12 t	17.95 t
優良処理業者への 処理委託量	0 t	3.647 t	0 t	0 t	0 t	43.84 t	30.07 t	0 t	0 t	17.95 t
再生処理業者への 処理委託量	3729.89 t	147.000 t	15323 t	0 t	1.9 t	52.796 t	30.07 t	2.45 t	49.12 t	17.95 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・リサイクル率向上の為、できる限り再生利用業者へ委託処理を行い、最終処分量の削減を図った。										
【目標】										
産業廃棄物の種類	動植物性残さ	動植物性残さ	汚泥	動植物性残さ	廃油	廃プラスチック類	廃プラスチック類	木くず	廃酸と廃ブラ類の混合物	廃酸
	おから	大豆かす	余剰汚泥	茶かす	潤滑油	汚れ有り	汚れ無し	木パレット	飲料廃棄製品	飲料廃液
全処理委託量	3,500 t	100 t	9,660 t	1 t	2 t	53 t	27 t	3 t	75 t	200 t
優良処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	46 t	27 t	0 t	0 t	150 t
再生処理業者への 処理委託量	3,500 t	100 t	9,660 t	1 t	2 t	53 t	27 t	3 t	75 t	200 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・優良認定処理業者を選定するようにする。 ・有償物量、再生利用量を増加させる。 ・委託先処理業者には、定期的に現地確認を実施する。										

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

現状	【前年度(令和4年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	汚泥と廃プラ類の混合物	汚泥	汚泥	ガラスくず	廃酸	汚泥	ガラスくずと金属くずの混合物	金属くず	汚泥と廃プラ類の混合物	特定有害汚泥	
		みそ廃棄製品	廃棄みそ	有機汚泥	薬品ガラス瓶	薬品廃液	廃棄薬品	蛍光灯、電球	薬品一斗缶	廃棄原料	廃棄薬品	
	全処理委託量	163.10 t	273.855 t	3,496 t	0.01735 t	0.360 t	0.018 t	0.278 t	0 t	7.25 t	0 t	
	優良処理業者への処理委託量	20.865 t	38.345 t	0 t	0.01735 t	0 t	0 t	0.278 t	0 t	0 t	0 t	
	再生処理業者への処理委託量	163.10 t	273.855 t	887.1 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	7.25 t	0 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) ・リサイクル率向上の為、できる限り再生利用業者へ委託処理を行い、最終処分量の削減を図った。											
計画	【目標】											
	産業廃棄物の種類	汚泥と廃プラ類の混合物	汚泥	汚泥	ガラスくず	廃酸	汚泥	ガラスくずと金属くずの混合物	金属くず	汚泥と廃プラ類の混合物	特定有害汚泥	
		みそ廃棄製品	廃棄みそ	有機汚泥	薬品ガラス瓶	薬品廃液	廃棄薬品	蛍光灯、電球	薬品一斗缶	廃棄原料	廃棄薬品	
		全処理委託量	130 t	500 t	325 t	0.05 t	0.5 t	0.01 t	0.2 t	0.01 t	14 t	0.01 t
		優良処理業者への処理委託量	0 t	300 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0.2 t	0 t	0 t	0 t
		再生処理業者への処理委託量	130 t	500 t	325 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	14 t	0 t
		認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) ・優良認定処理業者を選定するようにする。 ・有償物量、再生利用量を増加させる。 ・委託先処理業者には、定期的に現地確認を実施する。											

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】										
産業廃棄物の種類	廃油	特定有害廃酸	汚泥と金属くずの混合物	動植物性残さ	動残と廃プラ類の混合物					
	廃棄薬品	廃棄薬品	電池	廃棄みそ	みそ廃棄製品					
全処理委託量	0.256 t	0.013 t	0.07 t	16.70 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
優良処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0.07 t	16.70 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
再生処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0.07 t	16.70 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・リサイクル率向上の為、できる限り再生利用業者へ委託処理を行い、最終処分量の削減を図った。										
【目標】										
産業廃棄物の種類	廃油	特定有害廃酸	汚泥と金属くずの混合物	動植物性残さ	動残と廃プラ類の混合物					
	廃棄薬品	廃棄薬品	電池	廃棄みそ	みそ廃棄製品					
全処理委託量	0.01 t	0.1 t	0.1 t	130 t	15 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
優良処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0.1 t	130 t	15 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
再生処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0.1 t	130 t	15 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・優良認定処理業者を選定するようにする。 ・有償物量、再生利用量を増加させる。 ・委託先処理業者には、定期的に現地確認を実施する。										

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。